

平成22年度 第5回 (8月) 理事会議事録

- 日 時 平成22年8月12日(木) 午後6時30分～8時31分
- 会 場 社団法人大阪府臨床検査技師会事務所
- 出席者 今井、運天、吉本、高田、大垣、清水、
井戸田、出野、山田、宮野、酒井、栗本、山西、
杉山、増田、栗本監事、事務(仲野)
- 欠席者 竹浦、荒木、田畑、山中監事
- 議 長 今井

- 今井、運天、竹浦、高田、荒木
- 29日 大阪府地域保健感染症課
平成21年度事業報告
運天
- 30日 日臨技総合管理部門研修会議
運天、井戸田、酒井
- 31日 村上澄子氏福見秀雄賞受賞祝賀会
今井、運天、竹浦、吉本、高田、清水、
荒木、田畑、井戸田、出野、山田、
酒井、杉山

【討議内容】

I. 行動報告 (7月分)

- 7月1日 支部長会
田畑、出野、栗本
- 2日 マタニティカーニバル2010準備
栗本
- 3日 新入会員研修会
今井、竹浦、吉本、高田、清水、
井戸田、酒井、山西
- 3日 マタニティカーニバル2010
田畑、出野、栗本、竹浦
- 4日 マタニティカーニバル2010
田畑、出野、栗本
- 6日 大放技・大臨技合同フォーラム打ち合わせ
会議
今井、清水
- 8日 理事会
今井、運天、竹浦、吉本、大垣、清水、
荒木、田畑、井戸田、山田、宮野、
酒井、栗本、山西、杉山、増田、
栗本監事、山中監事
- 10日 北支部自由集会
田畑、栗本
- 11日 プレサレーベ試料調整(市大病院)
山西
- 13日 マタニティカーニバル2010反省会
栗本
- 13日 学術部会
竹浦、高田、宮野、山西
- 15日 情報組織部会
井戸田、酒井、山西、杉山
- 15日 地区事業部会
田畑、出野、栗本
- 15日 大阪府公益法人移行の相談
運天
- 17日 第5回 大臨技教育セミナー
今井、竹浦、吉本、高田、清水、山田、
宮野
- 19日 糖尿病療養指導士講演会
今井
- 20日 渉外部会
清水、栗本
- 21日 総務・会計部会
運天、吉本、荒木、山田、酒井
- 22日 府民健康フォーラム打ち合わせ会
今井、竹浦
- 24日 日臨技認定一般検査技師制度審議会
今井
- 24日 日臨技認定一般検査技師制度試験WG会議
今井
- 25日 日臨技認定一般検査技師制度試験WG会議
今井
- 28日 近臨技会長会議
今井
- 28日 近臨技理事会
今井、竹浦、高田、荒木
- 28日 常務理事会

II. 経過報告

1. 日臨技

- 7月15日に綱紀肅正についての通知があった。
(日臨技ホームページ参照)
臨床検査技師による不祥事が後を絶たないこともあり、再度、会員への周知徹底を図る。

2. 近臨技

- 7月28日に会長会議および理事会が開催された。
近臨技独自事業について協議された。
- 理事会報告事項
日臨技報告、各府県報告、委員会・部会報告、地区学
会進捗状況、仏語圏アフリカ臨床検査技術コース解散
式、第2回近畿地区連絡協議会報告があった。
- 理事会協議事項
①平成22・23年度の渉法部、学術部、予算委員
会、チーム医療推進委員会の各副部長、副委員長な
らびに各委員が選任され承認された。
②平成22年度OB会が、平成22年10月16日に開催
される。
③学会の名称が変更となった。第51回より「近畿地
区医学検査学会」と「地区」が入る。
④第50回近畿医学検査学会(奈良県)式典への日臨
技高田会長の招聘に対し、検討中である。
⑤全国会長会議、代議員会合同会議の対応を検討し
た。
⑥「支部化に対する対応および公益法人対策部会」を
「公益法人対策部会」に部会名を改名した。
⑦第9回病理・細胞診セミナーへの後援依頼が承認さ
れた。

3. 事務局

- 〈総務部〉
7月21日に部会を開催した。
• 大臨技会報(通巻第196号)の作成について検討し
た。8月中頃には発送される。
• 大臨技会員名簿の作成について検討した。10月に発
送を予定している。
• 公益社団法人への対応について検討した。
• PC通信システムについて検討した。
• 大臨技ニュース7月号を発行した。
• 大臨技ホームページを更新した。
〈会計部〉
7月21日に部会を開催した。
• 6月度収支報告書を作成した。
• 日臨技へ6月分会費の送金を行った。
〈渉外部〉
7月20日に部会を開催した。
• 第34回献血推進活動について準備を行った。8月7
日に難波グリーンガーデンにて開催された。
400mLの受付数は91名、採血数は72名であった。
ボランティアの方も会員22名、賛助会員4名と多く
の参加をいただいた。
• 第1回合同フォーラム委員会の報告を行った。第2回
委員会は9月1日開催予定である。
• 乳がん健診推進活動について討議を行った。
①平成22年10月16日(土)14時から17時、大阪

府医師協同組合会館にて開催予定。

- ②後援は日本臨床細胞学会大阪府支部細胞検査士会とする。
- ③特別講演を大阪府済生会野江病院の原田氏、教育講演を大阪大学大学院医学系研究科の南雲氏、大阪市立大学医学部附属病院の藤岡氏に決定した。
- 手話講演会について討議を行った。12月の講演会に備え、11月に2回程度、会員への勉強会を開催する予定である。

4. 事業局

〈情報組織部〉

7月15日に部会を開催した。

- 新入会員研修会（7月3日）の反省点を話し合った。参加者は33名であった。
 - 財務管理研修会（10月23・24日）について決定事項を報告した。
 - アンケート調査の内容について検討した。
- 〈地区事業部〉
- 7月15日に部会を開催した。
- 「マタニティカーニバル2010」（7月3・4日大阪南港ATCホール）について反省会を行った。
 - 会員交流会に関して検討した。10月2日（土）13:30から堺市とれとれ市パーペキューコーナーにて開催予定である。
 - 7月1日に支部長会が開催された。平成22年度前期事業報告、平成22年度後期事業計画について話し合った。
 - 7月10日に北支部自由集会が開催された。参加者は会員141名、賛助会員18名の計159名であった。

〈学術部〉

7月13日に部会を開催した。

- 第3回学術部講演会について打ち合わせを行った。詳細は大臨技ニュース9月号に掲載される。
- 第5回教育セミナーの案内を行った。
- 近臨技学術部部門長に関して確認を行った。

Ⅲ.他、報告

1.第5回大臨技教育セミナー（高田常務理事）

- 平成22年7月17日（土）14:00～17:00、関西医科大学附属滝井病院2F臨床講堂にて開催された。
- ①参加者は約150名であった。
- ②I部は教育講演として「循環器病と臨床検査」を関西医科大学附属滝井病院院長の岩坂壽二氏、II部がワークショップとして5名の演者による体験談が講演された。

2.大臨技府民健康フォーラム進捗状況（今井会長）

- 平成22年10月30日（土）14:00～17:00、大阪YMCA国際文化センターにて開催予定である。
- ①7月22日に、大阪府栄養士会、大阪府薬剤師会、大阪府臨床検査技師会の3団体による打ち合わせを行った。
- ②対象は、大阪府民とし、テーマは「糖尿病」とする。
- ③基調講演は佐藤クリニックの佐藤利彦先生、講演は、栄養士会理事の中前氏、薬剤師会常務理事の菅濱氏、大臨技より大阪鉄道病院の小宮山氏を予定している。
- ④パンフレットのサブタイトルは、「おそれず、あなごらさ糖尿病」とした。
- ⑤大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市の後援を予定している。
- ⑥行政にもチラシを配布し、予算は例年どおりである。
- ⑦府民へのアンケートの配布と、相談コーナーの設置を行う。

3.臨時総会について（吉本常務理事）

- 平成22年10月28日に大臨技事務所において開催予定であった臨時総会が、以下の経緯により中止となった。（新制度移行期間は平成25年11月30日までである）
- ①7月8日の理事会で承認され、大臨技ニュース8月

号の「うめくさ編集後記」に、新定款（案）公開の予告記事を掲載した。

- ②7月13日、大阪府当該担当より、新定款（案）第1章・第4条の内容について、より具体的内容が必要との指示があり、急遽、内容を変更した。
- ③大臨技ニュース9月号に「新定款（案）公開中」および「臨時総会開催予告」記事を掲載予定であった。
- ④8月9日の大阪府当該担当との面談では、公益法人認定基準が厳しく、会員限定の団体（職能団体）における事業は公益ではなく共益であり、公益を認められないとの見解であった。
- ⑤今後、「公益社団法人」取得から「一般社団法人」への切り替えの検討が必要となった。

4.その他

- 平成23年2月上旬から下旬の予定で開催される「平成22年度循環器病診療に従事する医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技師の研修案内」を、大臨技ニュース9月号とWEBに掲載する。
- 日臨技より、「子宮頸がん（HPV）予防ワクチン接種全額公費助成署名活動への協力をお願い」が届いた。大臨技ニュース9月号に掲載し、締め切りを9月10日とした。大臨技事務所で取りまとめ、9月15日までに日臨技に送付する。

Ⅳ.議題

1.日臨技の動向と今後について

- 8月8日に開催された日臨技全国会長・代議員合同会議の報告

①日臨技および支部の組織設計について

- (ア)8支部（北海道、東北、関東信越、中部、近畿、中国、四国、九州）とし、支部長は支部担当理事として支部推薦理事の中から、日臨技が指名する。
- (イ)学会名称の統一のため従来の地区学会の名称に「地区学会」を付けることとする。
- (ウ)日臨技理事定数は、支部推薦理事23名に会長推薦理事4名と会長の28名以内とする。
- (エ)会長は会員による直接選挙で選出、インターネットによる投票も検討している。副会長及び執行理事は全理事の中から会長が指名、専務理事は会長が推薦、代議員は廃止とする。
- (オ)執行部体制は、渉外法制部、教育研修部、公益事業Ⅰ部、公益事業Ⅱ部、総務部の5部体制とし、執行理事5名が筆頭となり企画・運営を担当する。
- (カ)常務理事は1名となり、地区担当理事は地区の取りまとめを専任とする。
- (キ)医療政策、技師教育、検査研究、総合精度保証等は、理事以外の各専門家による専門委員会を設置し運営される。
- (ク)総会は年1回5月に開催し、委任状もホームページで登録できるようにする。

②日臨技精度保証施設認証制度指針について

- 検査データの信頼性を維持管理するため、日臨技主催の外部精度管理調査およびデータ標準化事業に参加した施設に、精度保証施設として認証する制度を発足する。各都道府県では、「都道府県技師会精度保証施設認証委員会」を設置し、「精度保証施設認証制度指針」に従い審査し、都道府県理事会の承認を受け、認証基準の要求事項を満たす施設を日臨技認証委員会（公益事業Ⅰ部）に申請する。承認後、認証書を発行する
- 申請要領として
- (ア)パイロット認証：日臨技データ標準化事業の都道府県基幹施設を対象とし申請を行う。
- (イ)一般施設認証：基幹施設以外の都道府県施設を対象とし、パイロット認証の後に申請を行う。

③会費納入制度の変更について

- (ア)口座振替による日臨技直納を導入する。日臨技会費は、今年度9月頃から会員宛に口座引落に開

する必要書類が送付される。口座引落を希望しない場合は、コンビニ振込または郵便振替となるが振込み手数料は各自負担とする。

- (イ)第1回目の自動引落日を平成23年2月28日と3月27日の2日とし、引落としのできない場合はATM振込とする。
- (ウ)地臨技の年会費は、9月末日までに集金代行委託契約を希望すれば、日臨技による一括入金も可能である。集金代行委託料は無料とする。
- (工)日臨技として会員管理は個人情報(自宅会員とする)管理のみでいいとの見解で、今後JAMTISも大幅に変更する予定である。吉本常務理事より、大臨技として今までどおり施設会員管理を含め現在のJAMTISを継続して欲しいとの要望をした。これにより検討をするとの回答を得た。
- (オ)新卒者の新入会に関しては、日臨技より学校等に広報し、必要書類の送付を行う。

④補償制度の付与について

年会費自動引落会員に対しては、「臨床検査技師賠償責任保険」に無料で加入できる。保険期間は、平成23年6月1日午後4時から平成24年6月1日午後4時までとする。これに対し、地臨技よりコンビニ振込者に対しても適用して欲しいとの要望があり、日臨技で再検討することとなった。

⑤日本医学検査学会開催地については担当技師会が選択できる方式としたい。

- (ア)現行では、開催担当都道府県と開催地が異なる開催となる可能性がある。
- (イ)以前の方式に従い、開催担当都道府県と開催地を同一とする。

⑥新法人移行への対応について

一般社団法人へ移行した後に、条件が整えば公益取得を目指すこととした。7日臨技共催公益目的事業は廃止し、日臨技国民健康増進委託事業として行う。

⑦日臨技ホームページは、外部委託により全面的にリニューアルされる。

・大臨技検討事項

- ①日臨技に一括納入を依頼する集金代行委託契約をするか否かを検討した。検討の結果、平成23年度会費は、日臨技に一括納入を委託することとした。
- ②日臨技報告を大臨技として会員にどのように広報するかを検討した。
 - (ア)大臨技ニュース10月号に、入金方法の変更等、日臨技の報告事項から現状わかる範囲で広報することとした。
 - (イ)会費納入案内を同封する大臨技ニュース12月号には、会員に詳細な広報ができるように、Q & A方式で日臨技に確認をとりながらまとめて行くこととした。
- ③大臨技会員のみ加入希望者に対する対応等は、今後早急に検討の必要がある。
- ④「大臨技精度保証施設認証委員会」として、現在の「大臨技データ標準化プロジェクト委員会」が担当することが承認された。

V.後援申請

平成23年2月5日に開催される日本臨床化学会近畿支部主催の「第21回日本臨床化学会近畿支部総会」の後援申請が承認された。